

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和元年12月23日
足立区教育委員会
学力定着推進課

文部科学省が平成31年4月18日(木)に実施した「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査」の調査結果について下記のとおりお知らせします。

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒
足立区実施校数 小学校69校 中学校35校 全校実施

足立区調査人数

(単位：人)

科目 対象学年	国語	算数・数学	英語	児童生徒 質問紙調査
小学6年生	5,025	5,030	—	5,031
中学3年生	4,184	4,181	4,178	4,182

3 調査内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語(中学校のみ))

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※平成31年度以後、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のA B区分がなくなりました。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

【児童生徒に対する調査】

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【学校に対する調査】

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 「教科に関する調査」の概要

①小学校 各教科の平均正答率（％）

	国語	算数
足立区 ※	63.2	67.6
東京都（公立）※	65	70
全国（公立）	63.8	66.6

②中学校 各教科の平均正答率（％）

	国語	数学	英語
足立区 ※	72.4	57.6	55.2
東京都（公立）※	74	62	59
全国（公立）	72.8	59.8	56.0

※平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数で公表されることとなりました。

足立区においては、より緻密に全国平均値と比較するため、上記表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率 ○学習指導要領の領域、評価の観点、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率
全国回答割合	全国（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合
東京都回答割合	東京都（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合

5 各学年・教科の設問別調査結果及び課題分析と改善の方向性

※この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

【小学校6年生】

【国語】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	63.2	65	63.8
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.0	73.1	72.3
	書くこと	3	54.8	55.4	54.5
	読むこと	3	82.8	83.0	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	51.3	55.7	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	56.2	57.2	57.6
	話す・聞く能力	3	72.0	73.1	72.3
	書く能力	3	54.8	55.4	54.5
	読む能力	3	82.8	83.0	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	51.3	55.7	53.5

【国語】の課題分析と改善の方向性

国語の区全体の平均正答率は全国平均値とほぼ同値（－0.6 ポイント）でした。学習指導要領の領域等では、「書くこと」「読むこと」は全国平均値を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は下回りました。

問題別の分析では、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」（書くこと）ことに関する設問の平均正答率は、28.1%（全国平均値－0.7 ポイント）、無回答率 7.3%（全国平均値＋3.5 ポイント）であり、課題が見られました。自分の考えをまとめる際に、事柄の内容を関連付けて考えることができるようにすることが大切です。また、選んだ事柄が自分の考えの理由や事例として、ふさわしいかどうかを吟味するように指導する必要があります。

「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」（話すこと・聞くこと）ことに関する設問の平均正答率は、65.1%（全国平均値－3.1 ポイント）、無回答率 19.9%（全国平均値＋5.7 ポイント）であり、課題が見られました。自分の考えと、得た情報との共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、比べることができるように継続的に指導する必要があります。

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）ことに関する設問の中で、平均正答率 27.0%（全国平均値－8.6 ポイント）、無回答率 7.8%（全国平均値＋2.9 ポイント）の設問もあり、課題が見られました。学年別漢字配当表に示されている漢字について、全教育活動を通して定着が図れるようにする必要があります。

【小学校 6 年生】

【算数】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	67.6	70	66.6
学習指導要領 の領域	数と計算	7	65.6	66.7	63.2
	量と測定	3	52.4	57.5	52.9
	図形	2	77.2	79.0	76.7
	数量関係	7	70.4	72.2	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な考え方	8	61.8	65.5	62.2
	数量や図形についての技能	4	76.9	77.2	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	72.2	72.7	70.1

【算数】の課題分析と改善の方向性

算数では、区全体の平均正答率が全国平均値を 1.0 ポイント上回りました。学習指導要領の領域における正答率では、前年度と同様、「量と測定」を除く全ての観点で全国平均値を上回っています。唯一、全国平均値を下回った「量と測定」の領域では、「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」ことに関する設問の平均正答率が、全国平均値を下回りました。各学校が授業改善に取り組んできた成果が着実に表れている一方で、さらなる向上を目指すための課題も明らかになっています。また、無答率はすべての問題で全国平均値を上回っており、依然として課題があります。授業においては、単に問題を解決することのみならず、問題解決の過程や結果を振り返って、得られた結果を捉え直したり、新たな問題を見いだしたりするなどして、児童が目的意識を持って主体的に取り組むことができるようにすることが大切です。

【中学校3年生】

【国語】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		10	72.4	74	72.8
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.7	72.2	70.2
	書くこと	2	82.2	83.0	82.6
	読むこと	3	72.6	74.3	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	66.4	69.6	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	75.9	77.1	76.5
	話す・聞く能力	3	69.7	72.2	70.2
	書く能力	2	82.2	83.0	82.6
	読む能力	3	72.6	74.3	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	66.4	69.6	67.7

【国語】の課題分析と改善の方向性

国語の区全体の平均正答率は全国平均値とほぼ同値（－0.4 ポイント）でした。学習指導要領の領域等では、「読むこと」は全国平均値を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は下回りました。

問題別の分析では、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」（読むこと）ことに関する設問の平均正答率は、68.0%（全国平均値＋4.1 ポイント）、無回答率 0.2%（全国平均値＋0.1 ポイント）であり、課題が見られました。説明的な文章を学習する際は、グループで交流する学習を取り入れるなどして、それぞれの考えの根拠となる段落や部分を具体的に示しながら交流することを通して、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめられようように指導する必要があります。

「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」（話すこと・聞くこと）ことに関する設問の平均正答率は、60.4%（全国平均値±0 ポイント）、無回答率 11.4%（全国平均値＋2.5 ポイント）であり、課題が見られました。「話合いデザインシート」などを活用し、見通しをもった上で話し合うとともに、話合いの途中でその状況を確認し、必要に応じて進め方を修正して話し合うことを通して、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ力が身に付けられるよう指導する必要があります。

「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」（書くこと）ことに関する設問の平均正答率は、78.0%（全国平均値＋0.2 ポイント）、無回答率 10.2%（全国平均値＋2.3 ポイント）であり、課題が見られました。読み手を意識しながら、資料の中にある情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討した上で文章を書くとともに、書いた文章を観点に沿って読み合い、よい点や改善点について交流することを通して、自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして書く力を身に付けられるよう指導することが必要です。

【中学校3年生】

【数学】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	57.6	62	59.8
学習指導要領 の領域	数と式	5	62.3	65.7	63.8
	図形	4	70.9	75.0	72.4
	関数	3	37.0	42.1	40.8
	資料の活用	4	54.0	57.8	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な見方や考え方	8	48.7	52.8	51.0
	数学的な技能	3	62.9	66.9	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	68.8	72.6	71.3

【数学】の課題分析と改善の方向性

数学では、区全体の平均正答率が全国平均値を 2.2 ポイント下回りました。学習指導要領の領域・評価の観点における正答率では、前年度と同様に、全ての観点を全国平均値を下回っています。

設問ごとにみると、「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」の設問で全国平均値を 5.0 ポイント以上上回るものの、「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる」、「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」の2つの設問は全国平均値を 5.0 ポイント以上下回りました。いずれも、表の読み取りが必要な問題です。授業では、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、数量や図形などに関する事実や手続き、思考の過程や判断の根拠などを的確に表現したり、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝えあい共有したり、見だしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりする数学的活動に取り組むことが大切です。

【中学校3年生】

【英語】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		21	55.2	59	56.0
学習指導要領 の領域	聞くこと	7	66.8	71.1	67.9
	読むこと	6	56.2	59.3	55.6
	書くこと	8	44.2	49.5	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	-	-	-
	外国語表現の能力	1	2.0	2.3	1.8
	外国語理解の能力	6	43.1	48.2	44.7
	言語や文化についての知識・理解	14	64.1	68.4	64.7

【英語】の課題分析と改善の方向性

英語は、区全体の平均正答率が全国平均値を 0.8 ポイント下回りました。

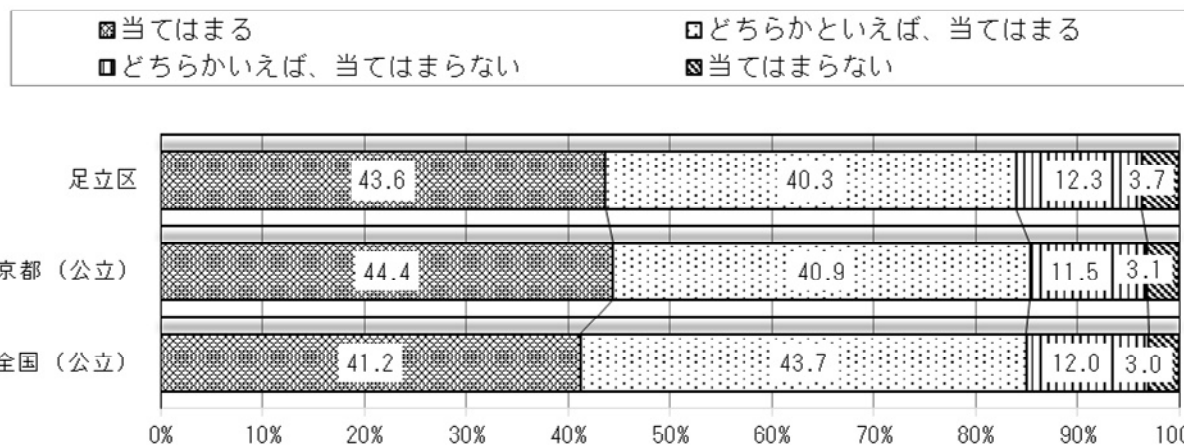
学習指導要領の領域において、「読むこと」は平均正答率が全国平均値を 0.6 ポイント上回っていますが、「聞くこと」は 1.1 ポイント、「書くこと」は 1.6 ポイント下回っています。評価の観点において、「外国語表現の能力」は平均正答率が全国平均値を 0.2 ポイント上回っていますが、「外国語理解の能力」は 1.6 ポイント、「言語や文化についての知識・理解」は 0.6 ポイント下回っています。「聞くこと」は 7 問中 3 問が全国平均値を上回っています。日常的な話題に関しては聞き取ることができていますが、まとまりのある英語を聞いて概要や必要な情報を理解する力を育てる必要があります。「読むこと」は 6 問中 3 問が全国平均値を上回っています。日常的な話題について、読み取ることはできていますが、まとまりのある英文を読んで、話のあらすじや大切な部分を読み取る力を育てる必要があります。多読を通して、そのような力を身に付けさせる指導が必要です。「書くこと」は 8 問中 4 問が全国平均値を上回っています。肯定文に関しては比較的よく書くことができて一方、疑問文や否定文に関しては定着させていく必要があります。授業では場面や状況の中で疑問文や否定文を必然的に使用させる指導をする必要があります。また、聞いて把握した内容について、適切に応じる問題では 48.4%の生徒が無回答となっていました。資料を読んで、自分の考えを示すことについては 32.3%の生徒が無回答となっています。日頃の授業において、目的を持って聞かせたり、読ませたりする指導が必要です。

6 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」結果の概要

【小学校6年生】

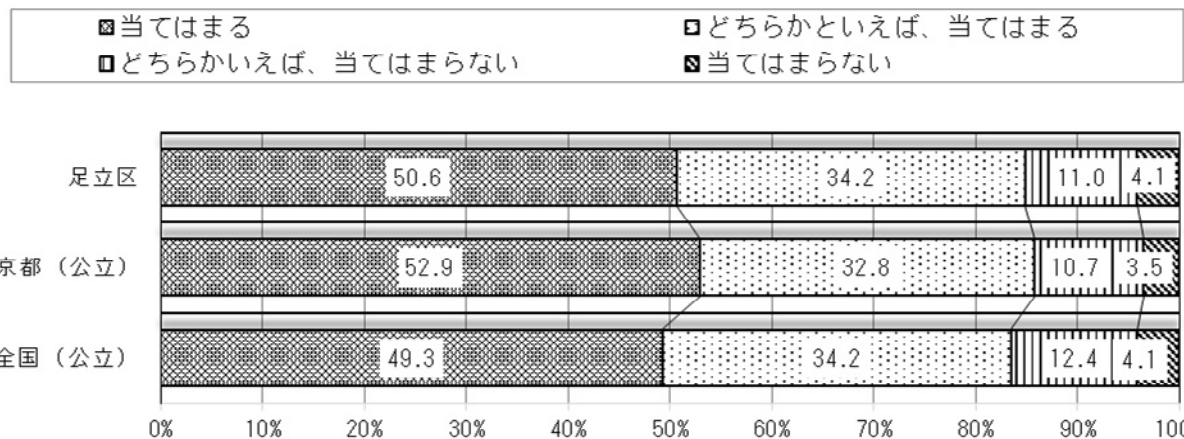
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は83.9%で、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」

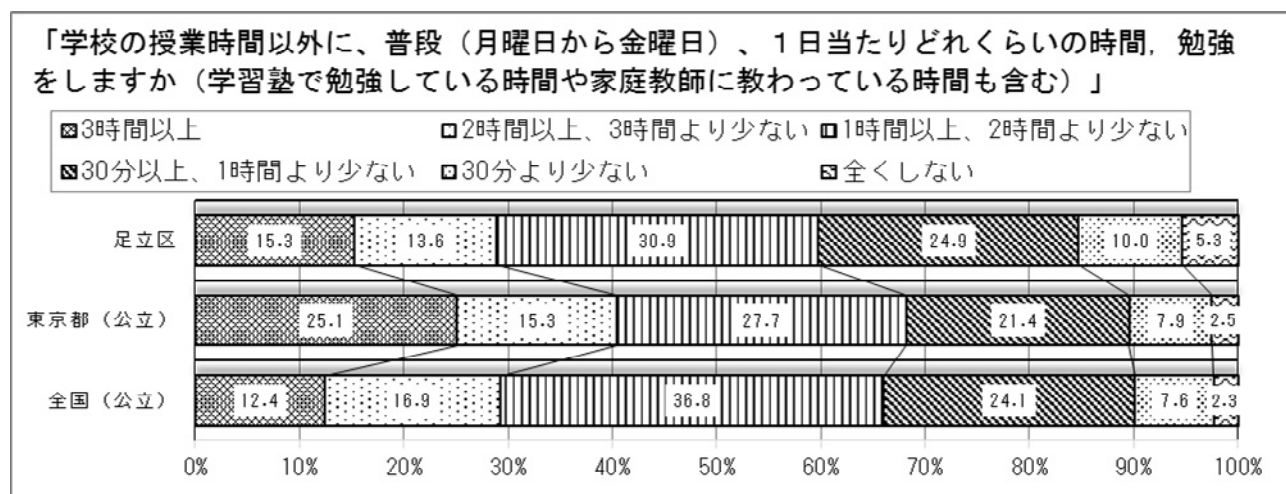


- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は84.8%で、全国回答割合を上回っています。

「算数の授業の内容はよく分かりますか」



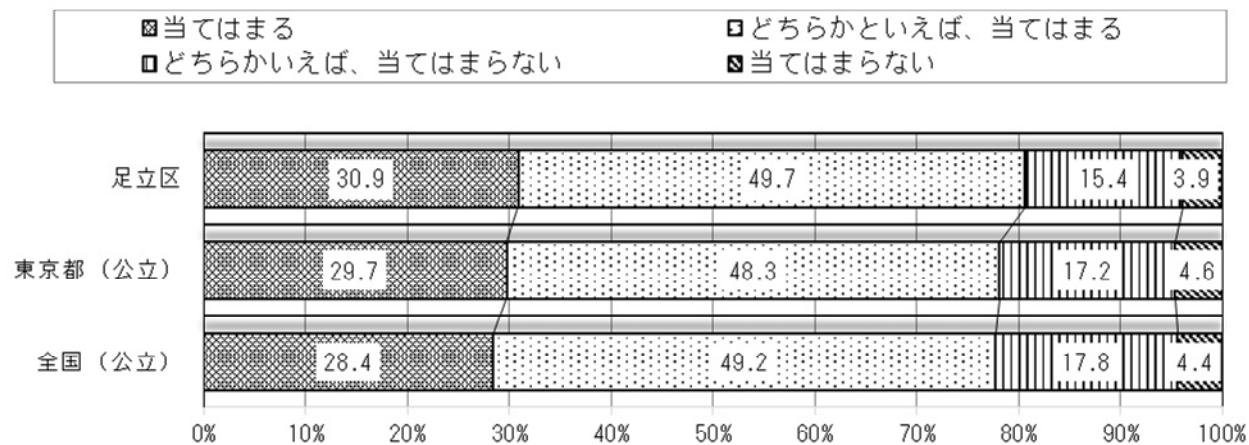
- 「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が3時間以上の児童の割合は15.3%で、全国回答割合を上回っています。一方で、1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は40.2%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。



【中学校3年生】

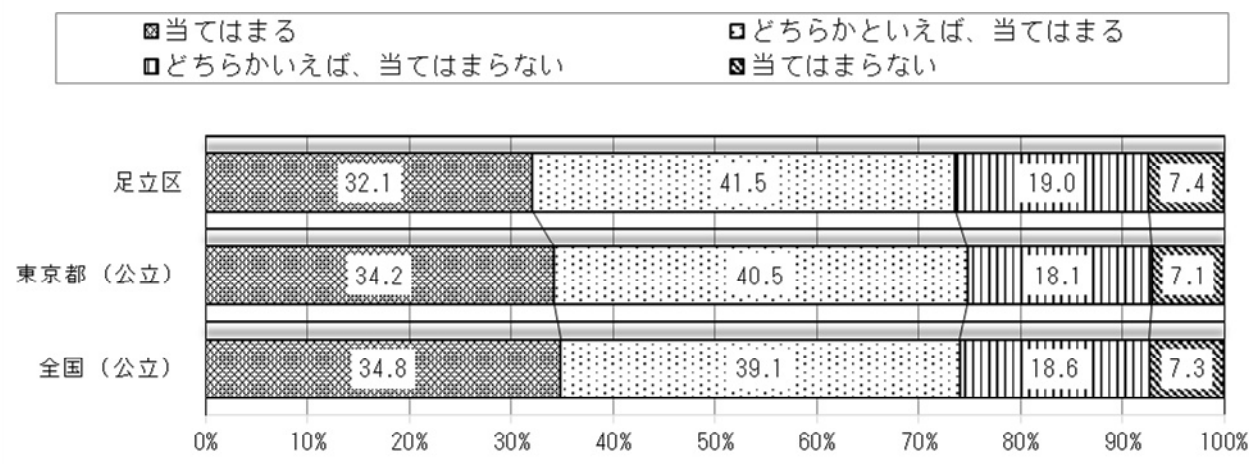
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は80.6%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」

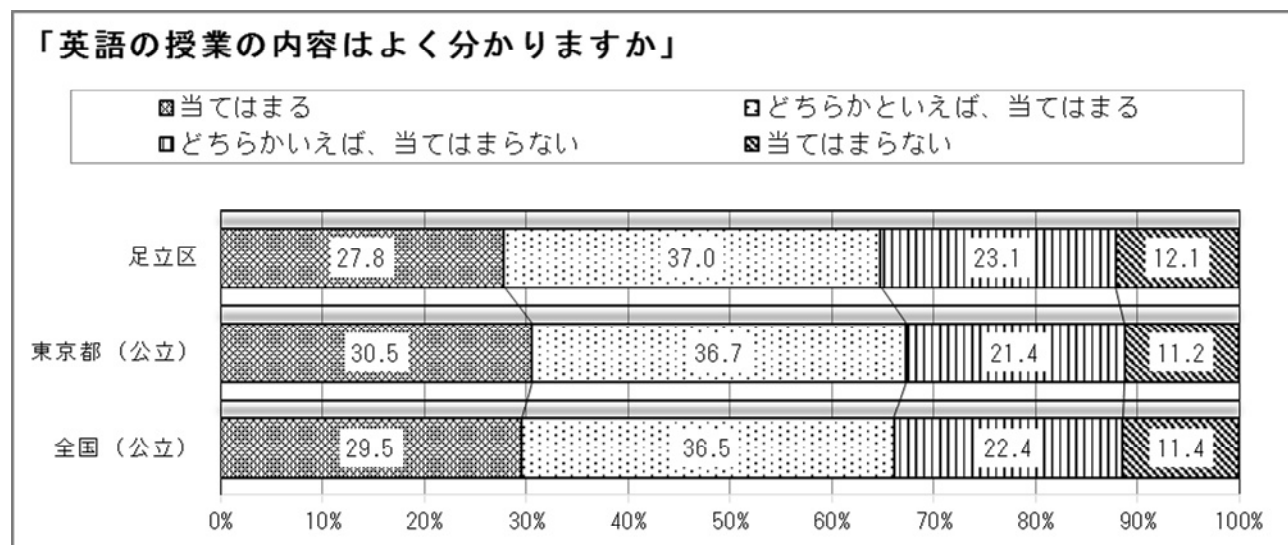


- 「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は73.6%で、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。

「数学の授業の内容はよく分かりますか」



- 「英語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は64.8%で、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。



- 「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は33.0%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

